

斗進

発行所

建交労田川支部

福岡県田川市新町10-60

電話

0947-44-0987

メール

tagawashibu@galaxy.ocn.ne.jp



2021年
7月10日
NO, 904

核兵器禁止条約の署名と 批准を求めろ！

みなさんは、原水爆禁止国民平和大行進です。

北は北海道・礼文島、南は沖縄から、8月の広島と長崎をめざし、核兵器のない世界を実現するために元気に訴え、歩き続けます。今から76年前の8月6日、8月9日、広島、長崎に投下された、たった一発ずつの原子爆弾は、2つの都市を一瞬のうちに破壊しつくし、その年のうちに21万人の命を奪いました。その2つの爆弾とは比べものにならないほど強力な核兵器が、今も1万3000発以上存在し、一発でも使われてしまえば、地球と人類の未来はありません。核兵器の脅威をなくす最も確実な方法は、核兵器の存在そのものをなくすことです。今年は、新型コロナウイルス感染症の拡大を防ぐため、マスクを着け、ソーシャル・ディスタンスを保つての行進・行動で、全国すべての都道府県、市町村をつないで核兵器の廃絶、平和の願いを被爆地へ届けます。(田川では7月19日に決まっています)

今年1月22日核兵器禁止条約が発効しました。核兵器廃絶を願う世論に後押しされ、4月時点で86カ国が署名、うち54カ国が批准をしています。しかし、残念なことに、ヒロシマ・ナガサキ・ビキニと3度にわたる原水爆被害を経験し、その非人道性と恐ろしさを一番わかっているはずの私たち日本政府は、核兵器禁止条約に背を向けており、世界中から驚きと落胆の声があがっています。

戦争による唯一の被爆国である日本が核兵器禁止条約に参加すれば、核兵器廃絶の流れにさらなる勢いを与え、アメリカなど核保有国に対しても大きな意思表示となります。被爆国であり、戦争放棄・戦力不保持の憲法9条をもつ日本こそ、核兵器禁止条約に参加し、世界の非核平和実現に向けての力を発揮するべきです。

世論調査では、日本の核兵器禁止条約への参加を求める声が7割以上を占め、また現在、全国の市区町村の3割以上、560を超える自治体議会が、日本政府に核兵器禁止条約の署名・批准を求める意見書決議をあげています。

田川市議会においても、6月議会で意見書が賛成多数で採択されました。



(2面に続く)

(1面からつづき)

ヒロシマ・ナガサキをその身で経験した被爆者のみなさんは、平均年齢83歳を超えています。原爆投下から76年を経て今なお身体を蝕む原爆症の恐怖と、今は新型コロナウイルスの恐怖とも闘いながら、ヒロシマ・ナガサキを繰り返すな、核兵器の廃絶をと訴え続けています。

日本政府こそ核兵器廃絶の先頭に立つてほしいという願いで署名・批准を求める運動がスタートしました。被爆者のみなさん、元外務大臣の田中真紀子さん、元防衛大臣の田中直紀さん、作家の瀬戸内寂聴さん、俳優の佐野史郎さん、作曲家の坂本龍一さんなど多くの方々が呼びかけています。

一人ひとりの声と行動で核兵器禁止条約に参加する日本を実現しましょう。あなたの一筆が、日本を、世界を動かします。この平和行進は、どなたでも参加できます。一歩でも二歩でも、スタンディングでも、おうちでも、平和を願う心をつなぎ、広げましょう。

核兵器のない世界を実現しましょう。

(2021原水爆禁止国民平和行進実行委員会資料より)

お知らせ

原爆パネル展があります

(田川文化センター1F展示室にて) 8月9日〜12日まで

これからの主な日程

7/8 (木) 田川市ソーシヤル就労者懇談 12時30分

7/9 (金) 福智町ソーシヤル就労者懇談 13時

7/12 (月) 九条の会 14時

7/13 (火) 原水禁第2回実行委員会 14時 (民商)

7/19 (火) 平和行進

7/26 (月) 「仲間のつどい」 17時30分 (青少年ホール)

8/1 (日) 九条の会総会 13時

8/3 (火) 原水禁第3回実行委員会 14時

8/6 (金) 原水禁広島大会 12時30分

8/9 (月) 原水禁長崎大会 13時

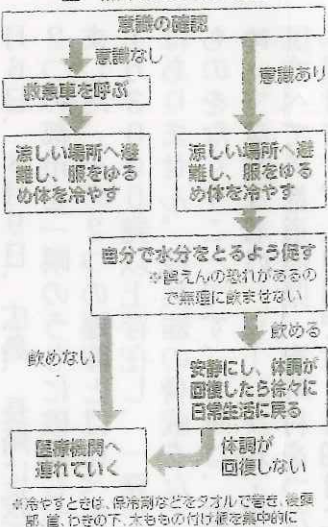
8/9 (月) 田川市ソーシヤル就労者懇談 13時

8/10 (火) 福智町ソーシヤル就労者懇談 13時

8/13 (金)〜15 (日) 盆休み

8月中旬に次回職場代表者会議をぎます。

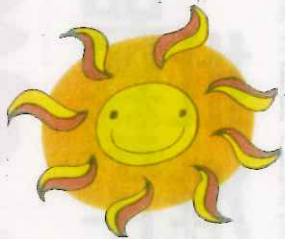
図 熱中症の応急処置



【原水禁事務局】〒730-0001 広島県福智町大森1-1-1 電話:082-821-1111 FAX:082-821-1112

表 熱中症を疑う症状

めまい●失神●筋肉痛●筋肉の硬直●大量の発汗●頭痛●不快感●吐き気●おう吐●けん怠感●虚脱感●意識障害●びいれん●手足の運動障害●高体温



高齢者の熱中症

自覚しないまま重症化の危険